

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎 C型肝炎	ProMED-mail 20130219.1550284	パキスタンにおけるB型肝炎及びC型肝炎に関する報告。肝炎予防プログラムの責任者によると、多数の検査施設が増設されるなどの成果があるものの、B型及びC型肝炎はパキスタン全土で着実に増加している。シンド州においては、B型肝炎患者が100万人、C型肝炎患者が200万人と概算されている。ワクチンの保管施設を新たに増設し、予防接種の機会を確保する必要がある。
2	E型肝炎	AABB Annual Meeting & CTTXPO 2012, SP456	E型肝炎ウイルス(HEV)の感染価定量系確立の報告。HEVを播種されたヒト肝癌細胞株(PLC/PRF/5)及びヒト肺腺癌細胞株(A549)を維持培地にて培養し、3週間後の培地における子孫ウイルスをRT-PCR法により定量的に評価する手法を確立した。本定量系を用いてMirasol感染性低減化技術の評価したところ、2Log以上の感染性低減化が確認された。このシステムはウイルス不活化技術の性能評価にも有用と考えられる。
3	E型肝炎	Vox Sang. 103(2012)184	米国におけるE型肝炎ウイルス(HEV)のプール血漿を介した感染の報告。2001年から2003年までの間にプール血漿を大量に投与された血栓性血小板減少性紫斑病患者38例を対象にレトロスペクティブに調査を実施した。38例のうち17例はSD処理血漿で、19例はクリオ上清血漿で治療を受けていた。SD処理血漿で治療を受けた患者のうち、4例において治療6カ月後に抗HEV IgGが陽転し、そのうちの2例では抗HEV IgMの陽転も認められた。一方、クリオ上清血漿で治療を受けた19例では血清学的にHEV感染は認められなかった。これは、プール血漿によるHEV感染を示唆する初めての抄録であり、更なる調査が必要である。
4	HHV-8感染	J Infect Dis. 206(2012)1497-1503	ウガンダにおけるヒトヘルペスウイルス8(HHV-8)の伝播に関する報告。6カ月の追跡期間を設けた前向きコホート研究により、HHV-8抗体陽性血液の輸血が受血者へ及ぼす影響について調査された。1092人の受血者中471人(43.1%)にHHV-8抗体陽性血液が輸血された。年齢中央値は1.8歳(0.1~78歳)で、111人(10.2%)が追跡期間中に死亡した。交絡因子(年齢、HIV感染、マラリア以外の疾患、輸血回数)を調整したところ、保管期間が短い(4日以内)HHV-8抗体陽性血液の受血者は、HHV-8抗体陰性血液の受血者と比較して死亡率が高かった。一方、保管期間が長い(5日以上)HHV-8陽性血液の受血者では、輸血と死亡率の増加との間に有意な関連は認められなかった。急性HHV-8感染と若年死亡率の関連性を検証するために更なる研究が必要である。
5	HHV-8感染	Transfusion. 52(2012)2294-2299	ガーナにおけるヒトヘルペスウイルス8(HHV-8)の伝播に関する報告。供血者及び全血輸血を受けた免疫正常受血者のペア252組から得た検体について、HHV-8に関する血清学的及び分子生物学的検査を行った。その結果、受血者28人(11%)及び供血者16人(6%)がHHV-8抗体陽性であり、抗体陽性の血液を輸血された抗体陰性受血者12人中1人について、HHV-8が伝播した可能性が高いことが判明した。サハラ以南アフリカでは、免疫抑制剤の使用の増加に伴い、HHV-8による臨床的リスクの増大が懸念されている。
6	HTLV	AABB Annual Meeting & CTTXPO 2012, P2-030A	米国におけるHTLV-I/IIの抗体陽性率に関する報告。2009年から2011年までに米国赤十字社で確認されたHTLV-I/II陽性供血者のデータを検索し、米国情勢調査の性別と地域分布に基づき、地域ごとの抗体陽性率を計算した。HTLV陽性の443人を含む、約700万人の供血者からの1,900万を超える供血が調査された。HTLVの抗体陽性率は10万人当たり2.3人であった。HTLV陽性供血者のうち女性は72%(443人中319人)、男性は28%(443人中124人)であり、抗体陽性率はそれぞれ女性が3.6/10万人、男性が1.2/10万人であり、男女差が認められた。さらに、供血者10万人当たりのHTLV陽性供血者数には地域差が認められ、北東部と西部、中西部と北東部、中西部と西部、中西部と南部の間で有意差があり、抗体陽性率が最も低かったのは西部であった。複数回供血者のうち、36人がHTLV陽性であり、14人は3年以内の供血が陰性であった。3年以内の新規感染が14例確認されたことから、HTLV単回抗体検査のみで供血者スクリーニングを行うことは有効ではないと結論された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
7	インフルエンザ	MMWR 62(2013)473-479	米国におけるインフルエンザ感染の報告。2012年9月30日から2013年5月18日までの間に、311,333サンプルが検査され、73,130サンプル(23%)がインフルエンザ陽性であった。陽性検体のうち、インフルエンザA型が51,675(71%)、インフルエンザB型は21,455(29%)であった。インフルエンザA型でサブタイプ解析が行われたものうち、H3型が97%は、H1N1pdm09型は3%であった。その他、2012-2013年のシーズン中、ミネソタ州及びアイオワ州で各1例ずつA(H3N2)変異型の感染が確認された。
8	インフルエンザ	ProMED-mail 20130627.1795810	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年6月、インディアナ州において4例のH3N2v感染が確認されたことを受け、州保健当局は、2013年夏期に予定される農業フェアへの参加者に対して予防措置を講ずることを推奨した。4例のH3N2v感染者はいずれも6月16-22日に開催された州内の農業フェアに参加しており、少なくとも2例はブタとの直接接触の機会があった。CDCによると、2012年中の米国内のH3N2v感染者数は309例であり、うち16例が入院し、1例が死亡した。
9	インフルエンザ	WHO WER 88(2013)137-144	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。WHOによると、2012年中の米国内のH3N2v感染者数は309例であり、16例が入院し、1例が死亡した。ヒト-ヒト感染を疑わせる事例が認められたが、継続的なヒト-ヒト感染は観察されなかった。血清学的分析によれば、成人は既に免疫を有するが小児は有していないとみられ、これは患者の大半が小児であったことと一致する。また、H3N2vはノイラミニダーゼ阻害薬(オセルタミビル、ザナミビル)に対して感受性を示した。
10	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/surveillance_monitoring/updates/2012_12_21_surveillance_update_175.pdf	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関するWHOの報告(2012年12月21日)。北半球の温帯地域の多くの国からの季節性インフルエンザの報告が増えつつある。特に、米国においてはインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が11月に報告されて以降、これまでに312例の感染が報告されている。欧州ではインフルエンザA又はBの報告頻度は低いままである。北アフリカ、地中海沿岸東部ではインフルエンザの報告が増えつつあり、東アジアからの報告は散発的である。中南米からのインフルエンザの報告は減少し続けている。A(H3N2)pdm09が優勢なペルー及びキューバを除き、中南米からの報告は主にA(H3N2)又はBである。南半球の温帯地域のほとんどの国は流行期ではない。
11	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/RiskAssessment_H7N9_07Jun13.pdf	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年6月7日現在、WHOへ報告されたH7N9感染例は計132例である。このうち37例が死亡し、他の感染者についても症状は重篤である。感染源や感染経路については調査が進められているが、生鮮市場の家禽からヒトへ感染したと推察されている。継続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。H7N9感染者と接触した2000名以上を対象にモニタリングが実施され、H7N9感染が少数例で確認された。WHOは関係国に対して状況の監視を継続するよう求めている。
12	インフルエンザ 鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/surveillance_monitoring/updates/2013_04_02_surveillance_update_182.pdf	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関するWHOの報告(2013年4月2日)。北米地域からの報告は1月以降減少し続けている。欧州地域からの報告頻度は減少し続けているが、デンマークなどでは依然として感染の増加がみられる。今シーズンに欧州で最も多く確認された型は、国により差異はあるものの、概ねA(H1N1)pdm09であった。アジアの温帯地域からの報告頻度は減少し続けているが、モンゴルでは依然として報告頻度が高いままである。今シーズン中、ノイラミニダーゼ阻害薬に耐性を示すウイルスはほとんど検出されず、検出されたウイルスの抗原性は北半球で使用されたワクチンのそれと類似していた。その他、中国においてA(H7N9)型の感染が3例確認されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
13	インフルエンザ 鳥インフルエンザ	HPS National Influenza Report(Week ending 31 March 2013- week13)	英国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。英国健康保護局は、2013年3月最終週においてインフルエンザ様症状の報告件数は前週よりも減少しており、この間、新たに入院を要したインフルエンザ感染例は5例であったことを発表した。一方、英国以外の情報として、インフルエンザA(H7N9)型の感染例が中国において3例報告されていることなどを公表した。
14	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130331.1612370	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国保健当局は、上海及び安徽省からH7N9感染の報告があったことを明らかにした。上海においてH7N9感染が確認されたのは87歳及び27歳の男性であり、いずれの患者も発症の後に死亡している。安徽省では35歳の女性がH7N9に感染し、現在重篤な状態である。H7N9の毒性やヒトからヒトへの感染の可能性について、専門家による調査が進められている。
15	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130401.1613895	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国保健当局は、上海及び安徽省においてH7N9感染計3例を確認したことを明らかにした。上海でH7N9感染が確認されたのは87歳及び27歳の男性であり、いずれの患者も発症の後に死亡している。安徽省では35歳の女性がH7N9感染に確認し、現在重篤な状態である。感染源は不明である。H7N9の毒性やヒトからヒトへの感染の可能性について、専門家による調査が進められている。また、上海で死亡した87歳男性の親族に、類似の症状を呈して肺炎と診断された者がいたが、H7N9への感染は確認されなかった。
16	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130401.1614707	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国保健当局はWHOに対してH7N9のヒト感染症例3例を報告した。これらの症例は、中国疾病予防管理センターによる検査で3月29日に感染が確定した。患者は上海で2例、安徽省で1例が確認され、2月19日から3月5日までの間に、呼吸困難を伴う重症の肺炎を発症した。2例は死亡し、1例は現在重篤な状態である。患者の間に疫学的関連は認められておらず、感染源及び感染経路の調査が進められている。
17	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130402.1616395	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国疾病予防管理センターは英語版のQ&Aにおいて、今回のH7N9感染の感染源は家禽であるとの見解を示した。H7型のヒトへの感染は稀であるが、過去には、家禽との直接接触によりH7型に感染した事例が報告されている。また、H7N9感染の後に死亡した上海の87歳男性の親族2名において、呼吸器症状を呈した者がいたが、いずれもH7N9への感染は確認されなかった。
18	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130402.1616911	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国当局の発表によると、新たに4例のH7N9感染例が確認された。これで中国国内で確認されたH7N9感染例は計7例となった。新たな4例は、江蘇省の32、45及び48歳女性並びに83歳男性であり、いずれも重篤な状態である。4例の間に疫学的な関連性はないと考えられている。45歳女性は鳥の食肉加工に携わっていた。
19	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130403.1619096	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。中国当局によるH7N9感染例(2例死亡、1例重篤)の報告を受け、世界中の専門家及び当局関係者が警戒をしている。このH7N9の遺伝子配列の解析によると、このウイルスはヒトに適応した可能性があるという見解が示されている。専門家のあいだには、パンデミックに関するリスク評価を急ぐ必要はないという意見や、短期間のうちに重篤な症例が3例発生したことは深刻に考える必要があるという意見、ヒト-ヒト感染の証拠は確認されておらず過剰な反応は控えるべきとの意見がある。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
20	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130403.1619515	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。新華社の報道によると、中国東部の浙江省において新たに2例のH7N9感染が確認され、うち1例が死亡した。2013年4月3日現在、中国国内のH7N9感染例は9例、死亡例は3例である。隣国ベトナムでは中国との国境において防疫措置が開始された。台湾では防疫に関する対策チームが編成された。
21	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130403.1619918	世界各国におけるインフルエンザの感染状況に関するWHOの報告(2013年4月2日発表)。北米地域におけるインフルエンザ感染は減少し続けており、3月第2週時点で報告された感染例の多くはB型によるものであった。欧州地域におけるインフルエンザ感染は減少し続けているが、デンマークなどでは依然として感染数の増大がみられる。今シーズンに欧州で最も多く確認された型は、国により差異はあるものの、概ねA(H1N1)pdm09であった。アジアの温帯地域におけるインフルエンザ感染数は減少し続けているが、モンゴルでは依然として感染数が高いままである。今シーズン中、ノイラミニダーゼ阻害薬に耐性を示すウイルスはほとんど検出されず、検出されたウイルスの抗原性は北半球で使用されたワクチンのそれと類似していた。その他、中国においてA(H7N9)型の感染が3例確認されており(4月3日時点では感染9例、うち死亡3例)、詳細な記載が別途報告されている。
22	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130404.1621799	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月4日、中国保健当局はH7N9感染による4例目の死者が確認されたことを明らかにした。中国国内のH7N9感染例は計11例となった。新たに死亡が確認されたのは、江蘇省の48歳男性で、家禽の運搬業務に従事していた。また、香港の専門家チームが情報収集を目的として上海に派遣された。
23	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130404.1621801	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月4日、中国東部の浙江省において国内10例目となるH7N9感染例が確認された。感染が確認されたのは64歳の男性で、3月29日に発症し、4月4日にH7N9陽性と確認された。これまでに、江西省で4例、浙江省で3例、上海で2例、安徽省で1例のH7N9感染例が確認されている。また、中国保健当局は、H7N9感染に関する透明性確保とWHOとの協調を約束し、駐在するWHO職員に対して、感染状況と実施中の措置について概要の説明を行った。
24	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130404.1621938	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月4日、中国農務当局は、上海の市場で捕獲されたハトからH7N9ウイルスが検出されたことを明らかにした。国立の検査機関による遺伝子解析の結果、ハトから検出されたウイルスはヒト感染例から分離されたH7N9と同一の起源である可能性が高い。4月4日現在、中国国内のH7N9感染例は11例であり、これまでにヒト-ヒト感染を疑わせる事例は確認されていない。
25	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130404.1622647	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。新華社通信の報道によると、中国国内のH7N9感染者は14例であり、そのうち6例が上海から報告されている。WHOは、今回のH7N9はヒトからヒトへの感染が起こりやすいサブタイプではないためパンデミックの可能性を否定している。一方で専門家は、さらなる感染拡大を防ぐため、感染源と感染経路の特定を急ぐ必要があることを強調する。これまでに、上海の市場のハトからH7N9ウイルスが検出され、ヒト感染例から分離されたウイルスとの同一性が高いことが確認されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
26	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130524.1735447	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。2013年5月23日、米国の公共ラジオ局の報道によると、H7N9が哺乳動物(フェレット及びブタ)の間で伝播することが実験的に確認された。同一ケージ内で飼育されたフェレットではH7N9は容易に伝播することが確認され、直接接触によるものと考えられた。同様の事象はブタにおいても確認された。また、2013年5月22日に発行された学術誌によると、感染者から分離された2種類のH7N9においてヘマグルチニン遺伝子の突然変異が確認され、H7N9は変異の結果、ヒトへ適応した可能性があること示唆された。
27	鳥インフルエンザ	The Lancet 38(2013)1916-1925	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する研究報告。H7N9感染が特定された4例(平均年齢56歳、2例死亡)を調査した。全症例とも発症の3から8日前に家禽との接触歴があった。感染者は発熱及び急速に悪化する肺炎の症状を呈し、リンパ球減少、白血球減少、肝又は腎機能の障害等が認められた。病態の進行に伴い、播種性血管内凝固を認めた例もあった。感染者から得られたヒト分離株は、疫学的に関連のある市場のニワトリから得られたウイルスと類似していた。このヒト分離株のH7遺伝子は中国浙江省のアヒルから検出されたH7N3ウイルスと類似しており、N9遺伝子は韓国で検出された鳥のH7N9ウイルスと類似していた。さらに、H7遺伝子にはalpha-2,6-シアル酸受容体の親和性増大や哺乳動物への適応に関連する変異があり、M2遺伝子にはアダマンタンへの耐性に関連する変異が認められた。
28	鳥インフルエンザ	WHO/GAR April 1, 2013	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。中国国家衛生・計画出産委員会は、2013年3月31日、WHOに対してH7N9のヒト感染症例3例を報告した。これらの症例は、中国疾病予防管理センターによる検査で3月29日に感染が確定した。患者は上海で2例、安徽省で1例が確認され、2月19日から3月5日までの間に、呼吸困難を伴う重症の肺炎を発症した。2例は死亡し、1例は現在重篤な状態である。患者の間に疫学的関連は認められておらず、感染源及び感染経路の調査が進められている。
29	鳥インフルエンザ	WHO/GAR April 3, 2013	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月3日、中国保健当局は、新たに4例のH7N9感染を確認したことをWHOへ報告した。感染が判明したのは、45歳の女性、48歳の女性、83歳の男性、32歳の女性であり、これらの症例の間に関連性はない。4例とも3月19日から21日までの間に発症し、いずれも重篤な状態である。この時点までにH7N9感染が確定した症例は中国国内で計7例である。
30	鳥インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/avianflu/h7n9-virus.htm	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月1日、WHOは、H7N9感染例3例を報告した。中国当局の調査は継続中であるが、感染の発生地域の鳥から同H7N9ウイルスが検出されている。ヒトからヒトへの感染は確認されていない。これらの状況を踏まえ、米国疾病予防管理センターは、米国の医療関係者及び保健衛生担当部署向けに、ウイルスの検査法及びH7N9感染症例の定義、並びに予防措置に関するガイドランスを公表した。
31	鳥インフルエンザ	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002z1vl.html	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する国内の対応。2013年4月3日、厚生労働省は各都道府県宛てに通知を発送した。WHOが作成した質疑応答集の仮訳について関係者へ周知すること、感染の疑われる患者が認められた場合には厚生労働省へ連絡すること、当該患者の診療に際しては標準予防策を徹底すること等について協力依頼がなされた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
32	鳥インフルエンザ	http://www.phac-aspc.gc.ca/phn-asp/2013/h7n9-0403-eng.php	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。カナダ保健当局は、カナダ国民を対象に、中国におけるH7N9感染に関する情報提供を行った。カナダ国内ではH7N9感染例は確認されていない。鳥のインフルエンザにヒトが感染するリスクは一般的に低いと考えられている。感染した鳥を喫食しても感染のリスクはないが、中国から鳥の生肉等を輸入してはいけない。また、国内の試験機関ではH7N9の迅速な検出を行う準備ができていないことなどが示された。
33	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/csr/don/2013_04_01/en/index.html	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年3月31日、中国保健当局はH7N9のヒト感染例3例をWHOへ報告した。これらの症例は、3月29日、中国疾病予防管理センターによる検査で感染が確定した。患者は上海で2例、安徽省で1例が確認され、2月19日から3月5日までの間に、呼吸困難を伴う重症の肺炎を発症した。2例は死亡し、1例は現在重篤な状態である。患者の間に疫学的関連は認められておらず、感染源及び感染経路の調査が進められている。
34	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20130215CumulativeNumberH5N1cases.pdf	鳥インフルエンザのヒト感染の発生状況に関する報告。WHOは、2003年から2013年までの鳥インフルエンザの感染例数及び死亡者数の統計を公表した。2013年2月15日時点の集計では、1月1日以降、カンボジアにおいて感染7例(うち死亡6例)、中国において感染2例、エジプトにおいて感染1例(死亡1例)が確認されている。
35	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/faq_H7N9/en/index.html	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する質疑応答集。2013年4月5日、WHOは、中国におけるH7N9感染に関して質疑応答集を公表した。H7N9ウイルスの特徴、感染時の主な症状、予防措置等について解説されるとともに、現時点でWHOは輸出入や渡航に関する特別の措置は不要と考えていることが示されている。
36	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/RiskAssessment_H7N9_13Apr13.pdf	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月13日の時点で、中国保健当局からWHOへ報告されたH7N9感染者は49例である。既に11例が死亡し、他の感染者も重篤である。感染者は、安徽省、江蘇省及び浙江省、並びに上海市及び北京市から報告された。同一家族内で複数の感染者が確認された事例も2件報告された。分離されたウイルスを解析した結果、3種の異なる鳥インフルエンザウイルスの遺伝子を有すること、alpha 2-6受容体との親和性に影響するアミノ酸置換のため哺乳動物への感染力が増した可能性があることなどがわかった。これらを受け、WHOはリスクアセスメントを実施した。現状のように継続的なヒト-ヒト感染がない場合は感染拡大の可能性は低く、WHOは渡航や流通の制限などの特別な措置を勧告しない。
37	鳥インフルエンザ	人民網(2013年4月24日配信)	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月23日、中国新聞網は、H7N9感染者として新たに4例が確認され、中国国内のH7N9感染者が108例、うち死亡者が22例となったことを報じた。さらに、中国農業科学院ハルビン獣医研究所の研究チームは、ヒトへの感染が確認されているH7N9ウイルスが、同時期に家禽市場に存在していたH7N9ウイルスと同じ感染源である可能性が極めて高いことを発見した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
38	鳥インフルエンザ	共同通信(2013年4月3日配信)	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月2日、中国江蘇省当局は、省内で新たに4例のH7N9感染を確認し、いずれも重症であることを明らかにした。発表によると、感染が判明したのは、食肉処理に従事する南京市の45歳の女性、木材加工に従事する宿遷市の48歳の女性、無錫市の32歳の無職の女性、蘇州市の83歳の男性であり、4例とも3月19日から21日までに発熱し、3月下旬に症状が悪化した。江蘇省当局は事態を重視し、情報収集や予防、治療に当たる専門チームを充足し、警戒態勢を強化している。
39	鳥インフルエンザ	第60回日本ウイルス学会学術集会; 2012 Nov.13-15	ベトナムの家禽から分離されたインフルエンザウイルスの遺伝子及び抗原性の解析に関する抄録。2010年から2012年までに、ベトナムの農場、生鳥市場及び野鳥保護区において家禽及び野鳥から計3,349サンプルを収集した。LAMP法によりインフルエンザAウイルスの遺伝子を検出し、分離されたウイルスの抗原性をHI試験により解析した。その結果、農場と生鳥市場のアヒル、バリケン及びニワトリから183株のウイルスが分離された。一見健康なアヒル及びバリケンからH5N1抗病原性鳥インフルエンザ31株が分離された。その他、H3ウイルス29株、H4ウイルス10株、H6ウイルス83株、H7ウイルス2株、H9ウイルス18株等が分離された。ベトナムでは抗病原性鳥インフルエンザがアヒルの間で不顕性感染を繰り返しており、生鳥市場がインフルエンザウイルスの温床であることが確認された。農場と生鳥市場の衛生管理を徹底し、モニタリングを強化する必要がある。
40	鳥インフルエンザ	読売新聞HP(2013年4月26日配信)	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月25日、中国江西省当局は、同省では初めてとなるH7N9感染例1例を確認したことと発表した。感染が確認されたのは69歳の男性で、19日夜に発熱して入院した。自宅から約100メートル離れた場所に生きた鳥を扱う市場があるという。4月26日時点で、中国本土での感染者は113名であり、そのうち23名が既に死亡している。
41	ウエストナイルウイルス	Transfusion. 52(2012)2664-2670	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)の核酸増幅検査(NAT)に関する報告。ニューヨーク血液センターにおいて、2010年7月1日～10月31日の期間中、供血サンプルについてNATスクリーニングを行い、NAT陽性の血液についてWNV-IgM及びIgG抗体の有無を調べた。WNVウイルス血症であるとみられる血液20本(0.0129%、1/7752)が確認され、そのうち、ミニプールのNAT(MP-NAT)では検出されなかった可能性がある9本が同定された。また、供血者個別に実施するNAT(ID-NAT)を遡及的に実施したところ、2本の陽性血液が確認された。ニューヨーク州におけるNAT陽性血液の多くは、州の中でもWNV症例の多い郡(ナッソー郡及びサフォーク郡)の居住者から採血されたものであった。
42	日本脳炎	ProMED-mail 20121222.1464216	インドにおける日本脳炎又は急性脳炎の大規模感染の報告。2012年12月19日、Siddharthanagar在住の小児1例がGorakhpurにあるBRD Medical College Hospitalで脳炎により死亡した。この病院では脳炎患者43例が治療中である。2012年、Gorakhpur及びBastiの多数の病院において、日本脳炎又は急性脳炎の症例3494例が入院し、そのうち588例が死亡した。
43	エボラ出血熱	ProMED-mail 20121116.1412991	直接の接触なしに、ブタからサルへエボラウイルス(EBOV)感染が伝播することを示した報告。ブタにEBOVを接種した後、未感染のカニクイザルと同じ部屋の別ケージで飼育したところ、8日後にカニクイザルはEBOV感染の臨床的症候を示した。この結果は、EBOVに感染したブタが直接触れていないサルに感染をもたらす可能性を示しており、可能性として空気を介した感染が考えられている。一部の科学者は、過去にフィリピンにおいて、食肉処理に関わっておらず、また、感染ブタへの接触もない養豚従事者がレストンエボラウイルスに対する抗体を保有していたことは、空気感染により説明がつくと考えている。また、ヒトへのEBOV感染にブタが重要な役割を果たしているのであれば、ブタへのワクチン接種といった介入が容易になる。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
44	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20120903.1278831	パキスタンにおけるコンゴ・クリミア出血熱の報告。2012年8月、Punjab州Chakwal県においてコンゴ・クリミア出血熱の確定症例1例の死亡が確認された。患者は65歳男性であり、8月27日にコンゴ・クリミア出血熱の徴候及び症状を発現し、8月29日に感染症のため死亡した。検査の結果、コンゴ・クリミア出血熱と確定された。
45	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20121005.1326653	パキスタンにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2012年10月、Punjab州RawalpindiにおいてCCHF感染症例が1例確認された。Rawalpindiから報告された症例はこれで2例目となる。症例は45歳男性であり、9月27日に高熱を呈し近隣の病院に入院した。2012年中に、パキスタン国内では38例のCCHF症例が確認され、うち14例が死亡している。WHOは、12月のイスラム教の祭典までに必要な措置を講じなければ、更にCCHF症例が増えると警告している。
46	コンゴ・クリミア出血熱	http://www.documents.hps.scot.nhs.uk/ewr/pdf2012/1241.pdf	英国におけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。英国の研究チームは英保健当局と共同で、英国で1例目となるCCHF症例を調査している。症例(38歳、男性)は、2012年10月2日、アフガニスタンからドバイでの乗継ぎ便で英国グラスゴーに到着し、3時間後に入院した。10月5日、検査結果により症例がCCHFであることが確認され、ロンドンの病院へ搬送された。患者は10月6日に死亡した。病院や空港で患者と接触した職員が特定され、必要な措置が講じられている。
47	ハンタウイルス感染	Arch Virol. 157(2012)1981-1987	中国におけるハンタウイルス感染の報告。2009年から2011年にかけて中国湖北省江夏区で発生した腎症候性出血熱の9症例の患者血清を分析した結果、2検体からHV004と呼ばれる新規のハンタウイルスが検出された。HV004と他のハンタウイルスとの配列相同性は、塩基レベルで83-90%、アミノ酸レベルで95-99%である。
48	狂犬病	ProMED-mail 20130110.1491598	ネパールにおけるウシの狂犬病の報告。Jhapa郡Buhundangiにおいて、2012年12月第1週、狂犬病イヌの咬傷を受けた家畜ウシが狂犬病に感染した。その後感染は拡大し、ウシ6頭以上が殺処分され、その他の家畜への感染も確認された。
49	デング熱	ProMED-mail 20121007.1328469	カンボジアにおけるデング熱の発生状況に関する報告。2012年9月第1週までに、少なくとも34,483人のデング熱症例が報告され、昨年の同時期の12,972人と比較して2.66倍に増加した。また、今年9月までに146人の子どもがデング熱で死亡し、昨年の同期間の死亡者数59人と比較して2.47倍に増加している。保護者が患児を個人医院に連れて行き、治療が無効で疾患がより重篤になってから公立病院を訪れるため、その時には既に手遅れとなっていること多く、そのため死亡者数の増加につながったと保健当局の専門家は考えている。
50	デング熱	ProMED-mail 20121209.1443556	インドにおけるデング熱の報告。2012年11月27日現在、インド国内におけるデング熱症例は37,070例であり、227例が死亡した。最も影響を受けたのはKerala州であり、3,760例以上が感染した。
51	デング熱	ProMED-mail 201302111538073	ベトナムにおけるデング熱の報告。ベトナム南部地域において、年齢15~35歳のデング熱症例が増加している。2012年、小児及び成人を含めて62,039例の感染が確認され、2011年と比較して11.2%の増加であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
52	ニパウイルス感染	ProMED-mail 20130205.1530748	<p>バングラディッシュにおけるニパウイルス脳炎の報告。バングラデシュで再流行した致死性のニパウイルス脳炎によって、2012年から2013年のシーズン中、感染者12例のうち10人が死亡した。バングラデシュの疫学疾病対策研究所 (IEDCR)によると、死亡者はダッカ県、バブナ県、ナトール県から各2名、ラジバリ県、ジェナイダ県、ナオガオン県、ラジシャヒ県から各1名が報告されている。ダッカ県の死亡者2名はナツメヤシの生ジュースを飲んだことが確認されている。IEDCRの担当官は、感染したコウモリの尿や唾液で汚染された生のナツメヤシジュースや果物を飲食しないように警告した。患者を介護する者も予防策をとる必要がある。</p>
53	灰白髄炎	MMWR 61(2012)741-746	<p>ワクチン由来ポリオウイルス (VDPV)に関する報告。VDPVには、ヒトからヒトへの感染を認める循環型 (cVDPV)、原発性免疫不全患者から分離される免疫不全型 (iVDPV) 及び感染源不明の不明型 (aVDPV) の分類がある。2009年7月から2011年6月までに、cVDPVの感染は計6カ国で確認され、コンゴ共和国、ソマリア及びマダガスカルではアウトブレイクが継続中である。また、1961年の生ポリオワクチンの導入以降、免疫不全患者65名からiVDPVが検出され、特に、低開発国及び中所得国 (中国、エジプト、インド、イラン、南アフリカ共和国、スリランカ、ヨルダン川西岸及びガザ地区) で感染者が確認されている。2011年4月から2012年6月までに、aVDPVは12カ国で確認されている。VDPV拡散防止にはサーベイランス強化とともに、ワクチン接種率を高く維持すること、不活化ポリオワクチンの使用を広めることが重要である。</p>
54	灰白髄炎	ProMED-mail 20121203.1435756	<p>パキスタンにおける灰白髄炎の報告。Qilla Abdullah及びPishinにおいて、未知のポリオウイルスのアウトブレイクが確認された。「Sabin株ポリオウイルス2型」と名付けられたこの新型ウイルスに感染した症例は、この3週間に10例が確認されている。この地域はポリオ撲滅運動に反対する勢力の影響下にあり、子供へのワクチン接種を辞退する親たちがいるため事態は深刻である。首相はBalochistan州政府に対し、感染拡大防止のための措置を講ずるよう求めている。なお、当局関係者によると、Sabin株ポリオウイルス2型は経口ポリオワクチンのウイルスに似ており、同様のウイルスは隣国アフガニスタンで2例の感染が確認されている。</p>
55	灰白髄炎	ProMED-mail 20121218.1458209	<p>アフガニスタンにおける灰白髄炎の報告。過去数週間においてBalochistanでは少なくとも新規症例10例 (Qila Abdullah Khan: 9例、Pishin: 1例) の灰白髄炎が報告された。同州では、2012年中、これらの症例とは別に4例の野生型ポリオウイルス1型の感染が報告されている。</p>
56	灰白髄炎	http://www.who.int/whr/2012/we48749_50.pdf	<p>世界各国における灰白髄炎の報告。2012年11月20日現在、2012年の野生型ポリオウイルス感染は、アフガニスタンで30例、パキスタンで54例が確定している。</p>
57	口蹄疫	OIE Nov. 29, 2012	<p>中国における口蹄疫: 発生日 2012年11月19日、報告日 2012年11月24日、原因 口蹄疫ウイルス O型。ブタにおいて感染の疑い例124頭、確定例30頭、屠殺例124頭であった。感染源は特定されていない。</p>

ID	感染症 (PT)	出典	概要
58	口蹄疫	OIE Nov. 30, 2012	台湾におけるブタの口蹄疫:発生日 2012年9月24日、最初の確定日 2012年10月27日、報告日 2012年11月30日、原因 口蹄疫ウイルスO型。Yun-Lin県Dongshih Townshipでブタの口蹄疫が発生した。感染の疑い例ブタ181頭、確定例ブタ83頭、死亡0頭、屠殺例0頭であった。
59	口蹄疫	ProMED-mail 20121125.1423689	中国におけるブタの口蹄疫の報告。2012年11月、遼寧省大連の農場において口蹄疫の症状を呈するブタ43頭が確認された。検査の結果、口蹄疫ウイルスO型が検出された。伝播の拡大を防ぐため、地元の政府当局により移動制限の措置が講じられた。
60	口蹄疫	ProMED-mail 20121218.1457421	中国におけるブタの口蹄疫の報告。農務当局は、2012年12月17日、江蘇省Changzhouの農場において口蹄疫に感染したブタ12頭を確認したことを明らかにした。検査の結果、口蹄疫ウイルスO型が検出された。感染拡大防止のため、発生地域は封鎖された後に消毒が施された。また、これまでに338頭のブタが殺処置された。
61	パルボウイルス感染	Pediatr Infect Dis J. 32(2013)178-179	ヒトボカウイルス(HBoV)に関する総説。2005年に呼吸器感染患児の鼻咽頭検体から未知のDNAウイルスが検出され、遺伝子配列分析の結果、HBoV1と命名された。これまでに3種類の新たなHBoVが同定されている(HBoV2~4)。HBoVはパルボウイルス同様、エンベロープをもたない微小なDNAウイルスであり、5kbの直鎖一本鎖DNAを有する。HBoV1は呼吸器及び血清から検出され、HBoV2~4は主に糞便から検出される。呼吸器感染症に罹患している低年齢の小児において、HBoV1のDNAの保有率は10~33%である。腸内ではHBoV2の陽性率が最も高く、小児の糞便検体の26%、成人では4%でHBoV2が検出されるが、HBoV3及び4の検出率は5%未満である。これまでに、HBoV1と上下気道感染症を関連付ける十分なデータが得られ、HBoV2と胃腸炎を関連付けるいくつかのデータが得られている。
62	パルボウイルス感染	http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/18/10/11-1373_article.htm	ガーナにおけるヒトパルボウイルス4(PARV4)感染に関する報告。サハラ以南のアフリカ諸国では、経口伝播がPARV4感染に関与している可能性がある。ガーナにおいて、気道症状を呈する15歳未満の小児1,904人から鼻腔検体または糞便検体を採取し検査を行った結果、鼻腔検体961例中8例(0.83%)及び糞便検体943例中5例(0.53%)からPARV4のDNAが検出された。検出されたPARV4は、いずれもジェノタイプ3に該当するウイルスであった。PARV4は気道又は糞口経路によって伝播することが示唆された。
63	ウイルス感染	WHO/GAR Sep. 28, 2012	中東における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2012年9月28日現在、WHOは、NCoV感染の新たな報告を受けていないことを公表した。これまでに得られた情報からは、NCoVはヒトからヒトへ容易に感染するものではないと考えられている。WHOは関連する検査機関と協力し、NCoVの高感度かつ特異的な検査法の確立を進めており、数日中に検査薬を提供できる見込みである。なお、WHOは、サウジアラビア及びカタールへの渡航制限や貿易の規制について一切の勧告を行っていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	ウイルス感染	WHO/GAR Nov. 23, 2012	中東における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2012年11月23日、WHOは、新たに4例のNCov感染の報告を受けたことを公表した。3例(1例は死亡)はサウジアラビアから、1例はカタールから報告を受けた。感染源の特定を含め、疫学、臨床、ウイルス学に関する調査は現在進められており、感染者と接触した者への追跡調査も実施されている。WHOは加盟国に対し、急性かつ重症の呼吸器障害に対する監視を徹底すること、普段認められない症状に注意を払うこと等を呼びかけた。また、より詳細な情報が得られるまでは、感染者の確認された2カ国(サウジアラビア及びカタール)以外にもウイルスが分布している可能性があると考えらるべきであるとした。
65	ウイルス感染	WHO/GAR Feb. 11, 2013	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。英国政府はWHOに対し、NCov感染を新たに1例確認したことを報告した。2013年2月11日現在、NCov感染としてWHOへ報告された症例は全世界で10例である。新たに確認された患者は、1月26日に症状を発現し、検査の結果、インフルエンザA(H1N1)pdm09及びNCovの感染が確認された。予備的調査の結果、患者はサウジアラビア及びパキスタンへの渡航歴があった。WHOは加盟国に対し、急性かつ重症の呼吸器障害に対する監視を徹底すること、普段認められない症状に注意を払うこと、感染者を認めた場合にはWHOへ速やかに報告すること等を呼びかけた。
66	ウイルス感染	WHO/GAR Feb 13, 2013	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。英国政府はWHOに対し、NCov感染を新たに1例確認したことを報告した。2013年2月13日現在、WHOへ報告されたNCov感染例は全世界で11例である。患者は最近の海外への渡航歴がなく、英国内で感染した可能性が示唆された。英国保健当局は感染者と接触した者への追跡調査を実施している。WHOは加盟国に対し、急性かつ重症の呼吸器障害に対する監視を徹底すること、普段認められない症状に注意を払うこと、感染者を認めた場合には当局及びWHOへ速やかに報告すること等を呼びかけた。
67	ウイルス感染	WHO/GAR Feb 21, 2013	サウジアラビアにおける新型コロナウイルス(NCoV)に関する報告。2013年2月21日、サウジアラビア保健当局は、新たに1例のNCov感染を確認したことをWHOへ報告した。当該症例は1月29日に入院し、2月10日に死亡し、2月18日に感染が確定した。2月21日現在、WHOへ報告されたNCov確定例は全世界で13例、死亡例は7例である。WHOは加盟国に対し、急性かつ重症の呼吸器障害に対する監視を徹底すること、普段認められない症状に注意を払うこと、新たな症例が確認された際にはWHOへ報告すること等を勧告した。
68	ウイルス感染	WHO/GAR May 17, 2013	中東における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2012年4月から2013年5月10日までの間に、中東諸国及び欧州3カ国(仏、独及び英)で確認されたNCov感染例は計40例である。2013年4月6日以降、サウジアラビアAl-Ahsa地区において21例のNCov感染が新たに確認され、この中には家族内で伝播したケースや、感染者と接触した後に発症したケースなどが含まれていた。このアウトブレイクの感染源については現在調査中である。またフランスにおいて、ドバイからの帰国後にNCov感染が確認された症例と病室をともにしていた症例1例においてNCov感染が確認された。NCovのヒト-ヒト感染は医療機関内や家族内において確認されているが、コミュニティ内で持続的に感染拡大する可能性があるか関心が高まっている。
69	ウイルス感染	WHO GAR May 23, 2013	中東における新型コロナウイルス(MERS-CoV)感染の報告。2013年5月23日、サウジアラビア保健当局は、新たに確認されたMERS-CoV感染をWHOへ報告した。感染者は基礎疾患を有する63歳の男性で、5月15日に呼吸器障害により入院し、5月20日に死亡した。サウジアラビア保健当局は4月に発生した医療機関内のMERS-CoVの集団感染についても調査を継続中である。この集団感染では22例がMERS-CoVに感染し、10例が死亡している。これまでに全世界で確認されたMERS-CoV感染例は44例であり、うち22例が死亡している。WHOは加盟国に対して、重篤かつ急性の呼吸器疾患に対する監視を継続することなどを勧告している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
70	ウイルス感染	WHO/GAR Background and summary of novel coronavirus infection-as of 21 December 2012	中東における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。WHOは、2012年10月から12月までの間に、NCov感染例として9例の報告を受けていることを公表した。カタール(2例)、サウジアラビア(5例)及びヨルダン(2例)から確定例が報告され、すべてが重症例であり、このうち5例が死亡した。確定例又は可能性例と接触があった者のうち、患者の家族の少なくとも2人及び医療従事者数名が肺炎症状を示しており、ヒト-ヒト感染の可能性が示唆された。このNCovはSARSコロナウイルスの遠縁に該当する。しかしNCovは、SARSコロナウイルスとは異なり、ヒト集団内で容易に感染したり、持続的に感染が拡大したりすることはないと考えられている。
71	ウイルス感染	ProMED-mail 20130212.1539086	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。英国保健当局(HPA)は、新規コロナウイルス感染を新たに1例確認したことを発表した。2013年2月11日現在、NCov感染例は全世界で10例であり、うち2例が英国で確認された症例である。新たに確認された患者は、2013年1月26日に症状を発現し、検査の結果、インフルエンザA(H1N1)pdm09及びNCov感染が確認された。予備的な調査の結果、患者はサウジアラビア及びパキスタンへの渡航歴があった。WHOは加盟国に対し、急性かつ重症の呼吸器障害(SARI)に対する監視を徹底すること、普段認められない症状に注意を払うこと、感染者を認めた場合には当局及びWHOへ速やかに報告すること等を求めた。
72	ウイルス感染	ProMED-mail 20130213.1541531	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2013年2月13日、英国健康保護局(HPA)は、NCov感染が既に確定している患者の家族1人においてNCov感染が確認されたことを発表した。新たに確認されたこの患者は、呼吸器感染症に罹患しやすい基礎疾患があり、呼吸器症状を呈して2月9日に入院し、現在は集中治療を受けている。この患者に最近の海外渡航歴はなかった。NCovによる重症肺炎の確定患者は計11名となった。HPAは英国国際ガイドラインに従い、患者と接触した家族及び治療に携わった医療従事者の監視を継続中である。
73	ウイルス感染	ProMED-mail 20130215.1544940	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2013年2月15日、英国健康保護局(HPA)は、NCov感染が既に確定している患者の家族内に新たにNCov感染が確認されたことを発表した。この家族内におけるNCov感染者はこれで3例目である。この患者は英国在住者で、最近の海外渡航歴はない。HPAの担当者によると、本事例はヒト-ヒト感染によるものとみられるが、通常の接触による感染リスクは依然低いと考えられる。HPAは国内外の関係機関と協力し、医療従事者や国民に対して最新の情報を提供することとしている。
74	ウイルス感染	MMWR 62(2013)194	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2013年3月7日時点でWHOへ報告されたNCov感染例は、全世界で14例あり、うち8例が死亡している。英国では、NCov感染が確定している患者の家族のうち2例においてNCov感染が確認された事例があり、英国保健当局はヒト-ヒト感染によるものとの見解を示している。現時点で、米国においてNCov感染は確認されていないが、ヒト-ヒト感染の証拠が確認されたことを受け、疾病予防管理センター(CDC)はNCovに関するガイダンスを更新した。呼吸器疾患の原因が不明のままであり、調査対象の基準を満たす患者がある場合は、州又は地方の保健部局を通じて速やかにCDCへ報告しなければならない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
75	ウイルス感染	http://www.who.int/csr/disease/coronavirus_infections/update_20130709/en/index.html	中東における新型コロナウイルス(MERS-CoV)感染の報告。2013年7月9日現在、MERS-CoVの感染確定例は全世界で80例であり、45例が死亡している。ヒト-ヒト感染の事例が確認されているが、継続的なヒト-ヒト感染による感染拡大は認められていない。しかし、今回新たに報告された16例のMERS-CoV感染確定例のうち、8例は無症候性の感染者であった。これは、他にも報告されていないMERS-CoV感染者が存在している可能性を示しており、既に継続的なヒト-ヒト感染が起きている可能性も示唆している。継続したモニタリングと徹底した疫学的分析が求められる。
76	ウイルス感染	www.hpa.org.uk/web/HPAweb&HPAwebStandard/HPAweb_C/1317138076372/2013/02/13	英国における新型コロナウイルス(NCoV)感染の報告。2013年2月11日、英国健康保護庁(HPA)は、英国内で新たに1例のNCoV感染を確認したことを公表した。これにより、NCoV感染が確認された症例は全世界で11例となった。患者は最近の海外渡航歴がなく、既に感染が確認された症例の家族の一員であった。HPAの専門家によると、NCoVでヒト-ヒト感染が起こることが裏付けられたものの、その感染の広がりやリスクは非常に小さいと考えられる。
77	ウイルス感染	Eurosurveillance. 18(2013)1-7	中東で流行する新規コロナウイルス(MERS-CoV)の感染拡大に関する報告。2013年5月30日現在、MERS-CoVの感染者は全世界で50例が確定しており、このうち30例が死亡している。感染源や感染経路、宿主動物に関する調査が進められている。これまでにヒト-ヒト感染の事例が確認されているが、本論文では、ヒト-ヒト感染の起こりやすさの大小に応じて大きく3通りの感染拡大のシナリオが想定されることを示し、必要となる疫学的調査や流行抑止策を提示している。
78	ウイルス感染	中日新聞HP(2013年5月17日配信)	中東における新型コロナウイルス(NCoV)がヒトからヒトへ感染することの報告。2013年5月15日、WHOは、サウジアラビアにおいて医療従事者2例が患者から新型コロナウイルスに感染したと公表した。感染が確認された2例のうち、45歳の男性は5月2日に発症して現在危険な状態であり、43歳の女性は5月8日に発症して現在は安定している。WHOは、医療機関がNCoV感染の疑いのある患者を診療する場合、他の患者や医療従事者の感染の危険性を抑える適切な管理をするよう勧告した。これまでに、中東及び欧州で約40例の感染が確認され、20例が既に死亡している。ウイルスは変異により感染しやすくなる可能性があることから、SARSのような大流行となるおそれが懸念されている。
79	ウイルス感染	病原微生物検出情報 2012年33巻303-304頁	中東における新型コロナウイルス(HCoV-EMC)感染の報告。2012年9月22日、カタールから英国へ搬送された49歳男性患者から新規コロナウイルスの遺伝子が検出された。この遺伝子は、2012年7月にサウジアラビアで急性肺炎及び腎不全により亡くなった60歳の患者から分離されたウイルスの遺伝子とほぼ一致していた。HCoV-EMCは既知のコウモリコロナウイルスの中ではHKU4及びHKU5と近縁であるが、自然宿主及び感染経路については不明であり、調査が必要である。10月末には何百万もの巡礼者がサウジアラビアを訪れる予定であり、HCoV-EMC感染が急激に拡大する懸念もあるため、今後の動向に注目する必要がある。
80	ウイルス感染	IASR 2013年1月30日	日本国内における重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関する報告。SFTSはブニヤウイルス科フレボウイルスに属する新規ウイルスによるダニ媒介性感染症である。今回、日本国内で初めてSFTS患者が確認された。患者は発熱、嘔吐及び下痢(黒色便)の症状を呈して入院し、白血球数及び血小板数の顕著な減少が認められた。その後、四肢脱力、肉眼的血尿及び多量の黒色便を認め、全身状態が不良となり患者は死亡した。入院中に採取された血液からSFTSウイルスが分離・同定された。SFTSに対して有効性の確認された治療法はなく、ワクチンも存在しない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
81	ウイルス感染	http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/3142-pr3963.html	日本国内における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)感染の報告。2012年秋、海外渡航歴のない患者に、発熱、嘔吐、下痢(黒色便)が出現した。入院時、明らかなダニの咬傷はなく、白血球数及び血小板数が著名に低下していた。その後、四肢脱力、血尿及び多量の黒色便を認め、全身状態が悪化し、患者は死亡した。入院中に採取された血液からSFTSVが分離・同定された。SFTSV感染に対して確立された治療法やワクチンはない。SFTSVに感染しないようにするには、ダニに咬まれないようにすることが重要である。
82	ウイルス感染	http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/3298-pr3981.html	日本国内における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)感染の報告。2013年1月30日に国内初のSFTSV感染が確認されて以来、2013年3月7日までに新たに2例の患者が判明した。1例は愛媛県の成人男性(海外渡航歴なし)であり、2012年秋に発熱、食欲低下、下痢を発現した。入院時にダニの咬傷を認めず、入院後に意識障害が出現し、肺炎を併発した。その後呼吸状態の悪化に加え、播種性血管内凝固症候群を併発して全身状態不良となり死亡した。入院中に採取された血液からSFTSV遺伝子が検出された。もう1例は、宮崎県の成人男性(海外渡航歴なし)であり、2012年秋に頭痛、発熱、下痢を発現した。入院時にダニの咬傷を認めず、入院3日後に強い背部痛と血小板の減少が認められた。入院4日目に全身性強直性痙攣を認め、代謝性アシドーシスを合併し、入院5日目に死亡した。入院中に採取された血液からSFTSVが分離された。この男性は日常的に山で活動していた。
83	ウイルス感染	Int J Infect Dis. 17(2013)e206-e208	中国において重症熱性血小板減少症候群(SFTS)がヒトからヒトへ感染した事例の報告。湖北省の63歳の発端患者は、2012年5月6日、発熱、血小板減少及び白血球減少の臨床症状を示し、5月12日に死亡した。この患者は典型的なSFTSの臨床症状を示したものの、SFTSの診断はなされなかった。発端患者の死後、その血液や血性分泌物に触れた2名、並びに血まみれの服をきれいにするのを手伝った1名が、曝露から7-12日後に発熱、血小板減少及び白血球減少を含む臨床症状を発症した。3名は、RT-PCR法及びウイルス分離によりSFTSと診断された。発端患者の発症から死後までに曝露された他の58名については、患者の分泌物に直接触れておらず発症した者はいない。SFTSウイルスは患者の死体血液や血性分泌物との接触を介して、ヒトからヒトへ感染することができると結論付けられた。
84	ウイルス感染	J Infect Dis. 207(2012)736-739	中国における重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ブニヤウイルスのヒトからヒトへの伝播に関する報告。2010年5月~6月に発生したSFTSのアウトブレイクの感染経路を同定するために調査が行われた。発端患者は58歳男性で、2010年5月20日に発熱、疲労、筋肉痛、咳及び悪心を呈し、5月30日に死亡した。6月6日~8日、発端患者と接触があった31人のうち4人(3人は家族)が二次感染し、SFTSと一致する症状を発症した。調査によると、二次感染には患者血液との接触が有意に関連していたが、呼吸器からの分泌物、尿、便との接触とは有意な関連性はなかった。二次感染患者4人全員の回復期血清において、IgG抗体が陽性であり、無症状の接触者27人では、ウイルスRNA及びIgG抗体のいずれも陰性であった。これらのことから、発端患者の血液との接触が二次感染者の感染源と推定できるが、他の感染源がある可能性もある。患者の家族及び医療従事者は、患者の血液や体液に直接触れないよう防護策をとることが推奨される。
85	ウイルス感染	Journal of Virology. 87(2013)1348-1358	ガーナにおける新規パラミクソウイルスによる人獣共通感染症の報告。ガーナの都市部に生息するストローオオコウモリから分離された、パラミクソウイルス科ルブラウイルス属の新規のウイルスであるAchPV1及びAchPV2について調査を行った。血清学的解析により、両ウイルスはサハラ以南全域及びギニア湾の島々に生息するストローオオコウモリにおいて水平伝播している可能性が示唆された。また、ガーナ及びタンザニアにおいて、AchPV2のヒトへの感染を示唆する所見が得られた。アフリカにおいて、パラミクソウイルスによる人獣共通感染症は見過されてきた可能性がある。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
86	ウイルス感染	ProMED-mail 20120929.1315179	オーストラリアにおけるロスリバーウイルス感染の報告。西オーストラリア州において蚊媒介性疾患が流行しており、特にロスリバーウイルス感染者については3年前の約5倍に増加している。西オーストラリア州のロスリバーウイルス感染者は、2009年-2010年で332人、2010年-2011年で770人、2011年から2012年では1,570人と増加した。過去2年間の感染者数の増加は、ラニーヤ現象によって蚊が多く発生したことが原因であると考えられている。
87	ウイルス感染	ProMED-mail 20121207.1442844	インドにおけるキャサナル森林病に関する報告。国立ウイルス学研究所の報告によると、国立公園内制限区域で最近死亡したサルの死因はキャサナル森林病であることが確認された。12匹のサルが同疾患により死亡した疑いがあり、直ちにセンターへ血液検体を送付された。この感染流行では、公園職員の感染も確認されている。周辺住民らへのワクチン接種が実施され、感染源及び感染経路について調査が行われている。
88	ウイルス感染	ProMED-mail 20130215.1544648	オーストラリアにおけるオーストラリアコウモリリッサウイルス感染の報告。クイーンズランド州北部在住の8歳男児が、オーストラリアコウモリリッサウイルスを保有するコウモリ又はオオコウモリによる咬傷又は擦過傷を受け、ウイルスに感染し、危篤状態に至った。これはオーストラリアコウモリリッサウイルスに感染した3例目の確定症例である。過去に感染した2例(1996年及び1998年)は死亡した。クイーンズランド州の保健担当官は、当該ウイルスに対する最良の防護策はコウモリやオオコウモリとの接触を避けることであると注意を呼びかけている。
89	ウイルス感染	Transbound Emerg Dis. 60(2013)193-196	中国におけるテンブスウイルス(TMUV)感染の報告。中国では、アヒル、ガチョウ及びイエズメのTMUV感染が報告されており、今回、ヒトにおけるTMUV感染について調査した。山東省においてアヒルを取扱う業務従事者から採取された血清サンプル132本のうち、95本(71.9%)が抗TMUV抗体陽性であり、63本(47.7%)がTMUVのRNA陽性であった。アヒルの産卵能低下に関連することが知られている遺伝子について、今回ヒトから分離されたTMUVはアヒル由来TMUVと95.5%の相同性を示した。これらの結果は、中国においてTMUVが人獣共通感染症として見落とされてきた可能性があることを示唆している。
90	ウイルス感染	Transfusion. 52(2012)2653-2663	カナダにおける輸血に関連したエプスタイン・バーウイルス(EBV)感染の研究報告。リンパ増殖性疾患と関連するEBVについては、現在スクリーニング検査が行われていない。本研究では、造血幹細胞(HSC)移植を受ける小児について、移植後のEBV感染率及び血液製剤の投与と感染との関連性を検討した。移植前のEBV抗体陽性率は、レシピエントで77.9%、ドナーで61.8%であった。レシピエントの全員が移植前後の期間に血液製剤の投与を受けていた。抗体陰性患者における移植30日後及び60日後のEBV累積感染率は、それぞれ4.6%、13.4%であった。また、臍帯血移植を受けた抗体陰性患者のみに限定した場合、移植60日後の累積感染率は8.3%であった。EBV感染と輸血量の関連性を肯定する傾向も認められており、これらの結果からHSC移植レシピエントにおける輸血と移植後EBV感染の関連性が示唆された。
91	BSE	OIE Feb. 7, 2013	ブラジルにおける牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。2012年12月7日、国際獣疫事務局の試験機関は、ブラジルで発見された死亡ウシについて免疫組織化学的検査を行い、BSE陽性が確認されたことを報告した。ブラジル獣医当局は、死亡までの急性の経過、高齢での発症(13歳近い)という特徴を示していることから、稀に自然発生する非定形型BSE症例であると考えている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
92	BSE	OIE Feb. 11, 2013	ブラジルにおける牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。2013年2月、国際獣疫事務局(OIE)の科学委員会は、ブラジルのBSE症例に関する検討を行い、OIEの基準に従い、ブラジルのリスク状況は「極めてわずかである」ことを撤回しないと結論した。しかし、ブラジルからOIEの検査機関へのサンプル送付が遅れたことについて懸念が示され、サンプルの処理手順に関する詳細な検討と、サーベイランスシステムの改善を求めることが合意された。
93	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Clin Microbiol 50(2012)4171-4174	スイスにおける非定型BSE発生の報告。2012年2月、6年6カ月齢のウシが、死亡した胎児を出産後、ダウナー症候群を発症した。当該ウシは2005年にドイツで生まれ、2007年にスイスへ輸入されていた。スイスBSEリファレンスラボラトリーで検査が行われた結果、BSE陽性が確認された。古典的BSEのサンプルと比較したところ、当該ウシのサンプルでは、PrPバンドが1.3~1.4kDa大きい分子量を示し、7.2kDa以下のバンドが別途確認された。また、当該サンプルは12B2モノクローナル抗体と反応したことから、H型BSE感染が確認された。これは、スイス及びドイツで肉骨粉の給餌が禁止されて以後、家畜がH型BSEに感染した初めての報告である。
94	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Veterinary record. 172(2013)70	英国で実施された遡及調査で判明した非定型BSE症例の報告。監視体制が確立した2001年以降、欧州各地で生化学的特性の異なるBSEが確認されており、それらは非定型BSEと呼ばれ、ウェスタンブロットの結果によりH-BSE又はL-BSEと大別とされる。この調査では、2001年7月から2012年1月までの期間に英国内でBSE陽性と判定されたサンプルを対象として、非定型BSEの検索が行われた。その結果、2007年1月から2012年11月までのサンプルのうち、4サンプルでL-BSEが確認された。4件とも高齢ウシ(11歳を超える)のサンプルであり、これらのウシはいずれも流通されていなかった。
95	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Retraits-de-lots-et-de-produits/Medicaments-Derives-du-Sang-LFB-Biomedicaments-Rappel-de-lots2	フランスにおける弧発性クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に起因するアルブミン製剤回収の報告。LFB Biomedicament社は、仏医薬品・保健製品安全庁との合意のもと、弧発性CJDを発症した可能性のある患者の血漿から製造されたアルブミン製剤Vialebexの2ロットの回収を実施した。この回収は予防的措置であり、本件による弧発性CJD感染の報告はない。当該製剤の製造工程においては、プリオン除去に効果のある処理が含まれている。血液製剤による弧発性CJDの発症は理論上のリスクではあるが、証明され、特定されたリスクではないとされている。
96	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.fda.gov/AdvisoryCommittees/CommitteesMeetingMaterials/BloodVaccinesandOtherBiologics/TransmissibleSpongiformEncephalopathiesAdvisoryCommittee/ucm339920.htm	米国における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)リスクに関する予備的評価。食品医薬品局(FDA)は、米国での赤血球製剤輸血を介したvCJD感染の確率を推定するためリスク評価を実施した。英国におけるvCJDの想定有病率が低い(100万人当たり約1.7人の感染)又は高い(100万人当たり約493人の感染)場合の2通りを仮定した。その結果、赤血球製剤1単位の輸血による予測リスクは、想定有病率を高く仮定した場合に48万分の1であり、低く仮定した場合に134万分の1であった。FDAは、リスク評価の手法やリスクに対する解釈が妥当であるかについて、伝達性海綿状脳症諮問委員会に助言を求めている。
97	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第71回公衆衛生学会総会59(2012)155	国内におけるクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に関する報告。特定疾患治療研究事業に係る申請、感染症法に基づく届出等を契機として、1999年4月から2012年1月までに1,780例がプリオン病として登録された。弧発性CJDは1,370例(77%)であり、獲得性CJDでは変異型CJDの1例を除いた79例が硬膜移植を受けていた。遺伝性プリオン病のうち、家族性CJDは250例(14%)、ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病は69例(4%)であった。プリオン遺伝子の解析は1,265例で実施され、317例(25%)で変異が認められた。codon 180(137例)及びcodon 102(69例)の変異が多く認められた。既に1,375例の死亡が確認されている。発病後1年以内に死亡した症例は44%であるが、これは欧米の報告と比較すると低い数値である。また、硬膜移植歴のあるCJD患者において、移植から発病までの期間の平均は151カ月である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
98	レンサ球菌感染	J Med Microbiol. 62(2013)483-485	ポーランドにおけるレンサ球菌感染の報告。35歳男性が細菌性髄膜炎の疑いで入院した。男性は食肉処理工場で5年間働いており、ブタ肉の処理中にけがをしていた。脳脊髄液及び血液の細菌検査の結果、Streptococcus suisが検出された。本症例は、レンサ球菌感染による髄膜炎のポーランド国内で初めての報告である。
99	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20130315.1587613	中国におけるレンサ球菌感染の報告。保健当局は、2013年3月9日、レンサ球菌感染で死亡した症例1例について調査していることを明らかにした。感染者は基礎疾患を有する85歳の男性で、3月2日に発熱と嘔吐を発現し、入院の後、敗血症と診断された。3月4日に状態が悪化し死亡した。血液培養によりStreptococcus suisが検出された。患者に最近の海外渡航歴はなかった。
100	ジフテリア	ProMED-mail 20120908.1285940	インドにおけるジフテリアの報告。Haryana州の保健当局は、Panipatにおいてジフテリアで死亡した小児5例が確認されたことを受け、ジフテリアの抑制に関する警告を発した。死亡が報告されたのはDavar Colony及びAshok Viharの市街地のスラム地域である。Panipatの医務官によると、500例以上の患児が治療を受け、9例の患児が更なる治療のために首都New Delhiの病院へ搬送された。保健当局者によると、今回のアウトブレイクの発生は同地域のDPTワクチン接種率が低かったことが原因と考えられている。
101	炭疽	OIE Oct. 10, 2012	イタリアにおける炭疽：発生日 2012年8月23日、最初の確定日 2012年8月25日、報告日 2012年10月10日、原因 炭疽菌。シシリア島Santa Cristina Gelaで炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ43頭、確定例ウシ1頭、死亡1頭、屠殺例はなかった。
102	炭疽	ProMED-mail 20130109.1489717	インドにおけるウシの炭疽の報告。Tamil Nadu州Cumbum市及びTheni市の農場において、2013年1月5～7日の間に20頭以上のウシが死亡し、検査の結果、炭疽であることが確認された。政府はTamil Nadu州からのウシの移動を制限した。1月7日以降にウシの死亡は確認されていない。今回、ウシの死亡が確認された土地は以前にも炭疽の発生が確認されていた地域でもある。
103	炭疽	ProMED-mail 20130128.1518274	ナミビアにおける炭疽感染の報告。2013年1月17日、Oshikoto地区Oniipaで炭疽のアウトブレイクが発生した。保健当局関係者によると、炭疽に感染したウシを喫食した2例がすでに死亡し、当該ウシの肉や皮膚に接触した22例が炭疽に感染した。感染者には皮膚発疹及び水疱の症状がみられ、いずれの症例も治療を受けている。家畜の炭疽は、Etosha国立公園で流行しており、その近隣地区でも時々発生している。保健当局は地域の住民に対して、死亡した家畜があるときはすぐに報告し、屠殺や喫食をしないよう警告している。
104	炭疽	ProMED-mail 20130318.1592093	オーストラリアにおけるウシの炭疽の報告。New South Wales州Moreeの隣接する2つの農場において、ウシの炭疽が確認された。それぞれの農場では、19頭(全飼育数の3%)及び18頭(全飼育数の3%)のウシが死亡した。両農場は封鎖され、死亡したウシは焼却された。また、感染するリスクの高いウシにはワクチンが接種された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
105	炭疽	ProMED-mail 20130422.1664942	インドにおける炭疽の報告。2013年4月、Odisha州Koraputの村で炭疽による死者1例と、他20例の感染者が確認された。発症の数日前、炭疽に感染したバッフアローの生煮えの肉を村人らが喫食していたことが確認されている。地元の医官によると、医療チームが村へ派遣され、感染者の治療にあたり、すべての予防的措置が講じられた。
106	結核	Lancet Infect. Dis. 12(2012)608-616	パキスタンにおける結核患者のスクリーニング法に関する報告。2010年から2011年にかけて、カラチの民間医療機関を対象とした、結核患者発見のためのマス・スクリーニングを実施した。実施した内容は、TV広告、地域のスクリーナー（非専門家）による携帯電話を用いた会話型アルゴリズムによる患者紹介などである。マス・スクリーニングの結果、2011年の発見患者数（3,140例）は、2010年の患者数（1,569例）と比較して2.00倍、肺結核患者に限ると2010年と比較して成人で3.77倍、小児で7.32倍に増加した。この方法は患者発見率を向上させる新しいアプローチであると考えられる。
107	結核	OIE Mar. 26, 2013	スイスにおけるウシ結核：発生日 2013年3月4日、最初の確定日 2013年3月8日、報告日 2013年3月26日、原因 Mycobacterium bovis。Vaud州Corcelles-le-Joratでウシ結核が発生した。感染の疑い例ウシ84頭、確定例ウシ1頭、死亡0頭、屠殺例はなかった。
108	結核	ProMED-mail 20121122.1420616	フランスにおけるウシ結核の報告。Mayenne県Asse-le-Berengerの農場においてウシ結核が確認された。180頭が結核と診断されて隔離された後、すべてが屠殺された。この農場では、2006年にもウシ結核の発生があった。ウシ結核の原因（Mycobacterium bovis）は、ヒトの結核の原因となるMycobacterium tuberculosisとは異なるものの、潜在的にヒトへの感染のおそれがある。フランス国内でのM. bovis感染例はほとんどないが、ヒトへの感染には感染ウシの排泄物との接触や生乳の摂取等が関連すると考えられている。
109	結核	ProMED-mail 20130105.1482604	米国におけるウシ結核の報告。2013年1月3日、ミシガン州農務当局は、ロウアー半島の乳牛の1群において結核感染が確認されたことを明らかにした。1990年代に発生したアウトブレイク以来、ミシガン州内14,000のすべての農場において検査が行われ、これまでに55の農場でウシ結核が確認されている。
110	結核	ProMED-mail 20130205.1529491	米国におけるウシ結核の報告。2013年2月1日、ワシントン州農務当局は、Moses Lake市においてウシ結核が確認されたことを明らかにした。食肉処理場で結核陽性のウシ1頭が確認され、州当局が検査を開始したところ、同市内の酪農場から他に11頭のウシ結核が確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
111	結核	ProMED-mail 20130326.1603312	米国におけるウシ結核の報告。2013年3月22日、ミシガン州農務当局は、州内の農場のウシ1頭において結核が確認されたことを明らかにした。この事例は、米国農務省の実施する食肉処理サーベイランスにより検出された。また、検出された株はミシガン州のシカ又はウシに特有の株であった。
112	結核	ProMED-mail 20130408.1631248	ニュージーランドにおけるウシ結核の報告。2013年4月、北島タラナキ地方でウシ結核が確認され、イングルウッドの3農場及びオプナケの1農場で隔離措置が講じられた。これらの農場における動物移動について調査が行われ、さらに、近隣の農場でも検査が行われる予定である。
113	結核	ProMED-mail 20130511.1703032	ニュージーランドにおけるウシ結核の報告。動物保健委員会(AHB)は、タラナキ地方で6頭目となるウシ結核が確認されたことを明らかにした。2013年1月に初めての感染例が確認され、4月末までに6頭の感染が確認された。同地域内で感染が確認された群の間でウシの移動があったことが確認されており、AHBの担当者は感染経路が特定されたと考えている。
114	サルモネラ症	Eurosurveillance 18(2013)20422	ハンガリーにおけるサルモネラのアウトブレイクに関する調査報告。2009年秋、ハンガリーにおいてサルモネラ(Salmonella Goldcoast)感染者数の著しい増加が観察され、調査が実施された。2009年1月1日から2010年3月1日までに、60例のS. Goldcoast感染症例が特定された。ケース・コントロール研究の結果、S. Goldcoast感染患者とポークチーズとの関連性が示された。本調査の結果、ブタ肉由来とみられる複数の汚染された食肉が市場に出荷されたことがアウトブレイクの原因であると考えられた。
115	サルモネラ症	Eurosurveillance 18(2013)20424	イタリアにおけるサルモネラのアウトブレイクに関する調査報告。2009年10月、サルモネラ(Salmonella Goldcoast)の感染増加に関するハンガリーからの緊急の問合せを契機として、イタリアにおいて全国規模の調査が実施された。2009年6月から2010年3月までに、S. Goldcoast感染者79例が特定された。このうち17例は、サラミ摂食と関連が高いと考えられる集団感染3件の患者であった。また、散発性の患者39例のうち20例においてもサラミの摂食が認められた。患者から分離されたS. Goldcoastの15株を解析したところ、ハンガリーの菌株と90%以上の相同性を示した。ハンガリーの菌株は、2009年から2010年にイタリアでブタ及びブタ肉加工製品から分離されたS. Goldcoastと極めて類似していた。本調査は、ブタ肉生産チェーンとアウトブレイクとの関連の可能性を示すものである。
116	ペスト	ProMED-mail 20120911.1290061	中国におけるペストの報告。2012年9月10日、保健当局は腺ペスト症例1例に関する報告を受けた。2012年9月2日、四川省Ganzizhou市の村人3例がマーモセット1匹を喫食した。そのうちの1例は右側のリンパ節に痛みを伴う腫脹を呈し、9月7日に入院したが悪化し、同日に死亡した。検査の結果、症例は腺ペストであることが確認された。保健当局は患者と接触した59名について調査を行っているが、ペストを発症した者は確認されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
117	ブルセラ感染	ProMED-mail 20121228.1473282	ロシアにおけるブルセラ症の報告。Volgograd州Krasnopartisanskiyの農場においてウシのブルセラ症が確認された。隣接するRostov州から必要な検査手続きを経ることなく移送されたウシが感染原因とされ、該当する70頭のうち8頭で感染が確認された。地元の獣医当局により予防措置が講じられた。
118	ポツリヌス中毒	ProMED-mail 20121221.1462935	オーストラリアにおけるウシのポツリヌス症の報告。クイーンズランド州ロンググリーチの農場においてウシのポツリヌス症が確認されたことを受け、州当局は家畜生産者らに対して、ポツリヌス症の徴候の有無を確認するよう促した。これまで発生がなかった地域での発生が確認されており、当局専門家は、今回の発生は最近の気候条件に起因していると考えている。さらに、当局専門家はポツリヌス症に有効な治療法はないため、感染予防が重要であることを強調した。
119	梅毒	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/UCM340993.pdf	米国食品医薬品局 (FDA) は、全血又は血液成分 (原料血漿を含む。) を採取する施設に対する、梅毒のスクリーニング試験に基づいたドナーのスクリーニング及びその試験法、並びにドナーの管理に関する勧告事項を改訂し、ドラフトガイダンスとして公表した。このドラフトガイダンスは、2003年6月付けの「梅毒のスクリーニング試験に基づいたドナーと製品の管理のための勧告事項 (改訂版)」と換わるものとなる。また、本ドラフトが最終版となった場合には、1991年12月付けのメモランダム「梅毒試験の結果に基づくドナーの不適合判定と製品の出荷に関するFDA勧告事項の説明」と換わるものとなる。
120	ボレリア感染	N Engl J Med. 17(2013)291-293	米国におけるボレリア感染の報告。回帰熱を引き起こす <i>Borrelia miyamotoi</i> はライム病を媒介するダニから検出される。米国において <i>B. miyamotoi</i> が存在する可能性について検討された。ライム病浸淫地域在住者の3群 (第1群: ロードアイランド州及びマサチューセッツ州でダニ媒介性感染症の血清検査を受けた584人、第2群: ニューイングランド州南部でライム病が疑われた277人、第3群: ニューヨーク州南部でウイルス感染様症状を呈しライム病検査を行った14人) から1990年~2010年の間に採取した血清保管検体について、ELISA法及びウエスタンブロット法を用いて <i>B. miyamotoi</i> の GlpQタンパク質抗体の検査を行った。その結果、抗体陽性率は第1群で1.0%、第2群で3.2%、第3群で21.0%であった。第2群の1人及び第3群の2人の回復期の抗体価は、急性期の抗体価と比べて4倍以上高く、これらの患者は最近 <i>B. miyamotoi</i> に感染したと考えられた。米国のライム病浸淫地域で <i>B. miyamotoi</i> 感染が広がっている可能性が示唆される。
121	リケッチア症	Clin Infect Dis, 56(2013)e105-e107	輸血によるエールリヒア症伝播の可能性に関する報告。2011年夏、ジョージア州の9歳の小児が発熱、疲労、不安感、嘔吐、下痢及び点状出血発疹の症状を呈し、検査の結果、エールリヒア症と診断された。患児は急性リンパ性白血病のため屋外で活動することはなく、家族によればダニから感染する可能性は思いつかないとのことであった。発症の前に複数回の輸血を受けていたことから、輸血による感染の可能性があると調査が行われたところ、輸血製剤のドナーのうちの1人が <i>Ehrlichia</i> 種に対する抗体を保有していた。当該ドナー由来の血液製剤を投与された8名の患者のうち、3名はエールリヒア症とは無関係な原因で死亡しており、残る5名はエールリヒア症の検査は陰性であった。本事例に関連する血液製剤はすべて白血球除去及び放射線照射の処理を受けており、今回の報告は、こうした血液製剤がリケッチア症の感染源となる可能性を示した初めての報告である。
122	リケッチア症	ProMED-mail 20121011.1337614	インドにおけるツツガムシ病の報告。2012年10月10日の報道によると、Himachal Pradesh州では過去2カ月間にツツガムシ病による死者が計28例確認されている。直近では2012年10月9日に1例の死亡が新たに確認されており、これは同州の医療施設の整備が不十分であるためと考えられている。これまでに同州では1000例以上がツツガムシ病の検査で陽性であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
123	ヒトアナプラズマ症	AABB Annual Meeting & CTTXPO 2012, S65-030J	米国におけるヒト顆粒球アナプラズマ症 (HGA) 感染の報告。64歳男性患者は、3日間続く倦怠感、労作時呼吸困難、下血により入院し、保存前白血球除去赤血球製剤5ユニットが輸血された。その後、容態が安定し退院したが、2日後、頭痛、発熱、悪寒により再入院した。末梢血スミアによりHGAと一致する桑実胚を持つ多形核白血球が確認された。受血者及び全5ユニットの白血球除去赤血球製剤の供血者セグメント検体についてAnaplasma phagocytophilumの検査を行ったところ、1名の供血者に感染が確認された。当該供血者は媒介ダニの多発地帯であるロードアイランド州在住の81歳健康男性で、屋外活動は行いがダニ刺咬歴はなかった。白血球除去はHGA伝播の予防とはならず、赤血球製剤がHGA多発地帯から非多発地帯へ供給されて輸血される例は多いため、受血者が予期せず発熱した場合は地域に関係なく輸血伝播によるアナプラズマ症の可能性を考慮すべきである。
124	ロッキー山紅斑熱	ProMED-mail 20121114.1409214	メキシコにおけるロッキー山紅斑熱の発生状況に関する報告。メキシコ保健省はダニ媒介性のリケッチア感染症であるロッキー山紅斑熱の4症例を確定し、別の4症例を疑いありと発表した。Coahuila州Saltilloの4集落で既に防疫線が設けられた。確定した4症例のうち1例がSaltillo、1例がParras de la Fuente、2例がTorreonからで、疑い例は全てSaltilloでの発生であった。Valle de las Aves集落において少なくとも2人の女児が死亡するというこの緊急事態に直面し、当該集落及びLomas de Zapaliname、Pedregal、Nueva Imagenでは2012年11月10日又は11日から予防措置が実施された。
125	リーシュマニア症	ProMED-mail 20130217.1546451	スペインにおけるリーシュマニア症の発生状況に関する報告。マドリッド南部の市町村 (Bosquesurの緑地帯周辺のFuenlabrada、Leganes、Getafe、Humanes等) で発生しているリーシュマニア症のアウトブレイクは、2012年の150症例を含めて過去3年間に500症例が報告されており、まだ継続しているとみられる。Bosquesurで増加しているウサギが保有宿主となっている可能性がある。2012年、Fuenlabradaは緊急事態地域と宣言され、事態を制御するためにウサギの駆除が許可された。スペイン当局は、2012年末までに報告された内臓リーシュマニア症は3例で、2011年の47例と比べて改善したと述べたが、2013年の現時点で既に3例の新規症例が報告されており、アウトブレイクはまだ終了していないとみられる。
126	リーシュマニア症	Vox Sang. 103(2012)356-358	リーシュマニアの病原体不活化技術の報告。無症候性リーシュマニア感染症は、流行地域における輸血感染の主な原因となっている。スペイン・バレアレス諸島では、供血者の無症候性Leishmania infantumの感染率は高い (調査対象供血者の5.9%)。現在、血液銀行の基準を満たす供血者のためのリーシュマニアスクリーニング検査は存在しないため、血液製剤中のリーシュマニアの除去のために数種類の方法が用いられている。今回、無症候性L.infantum感染供血者から採取された血液製剤を用いて、アモトサレンとUVA照射 (INTERCEPT) による病原体不活化技術の能力を評価した。不活化処理前の血小板製剤6例中5例で、RT-PCR結果が陽性であった。INTERCEPTでの不活化処理後、これらの血小板製剤はRT-PCRで陰性となり、in vitro培養において6カ月後も全て陰性であった。これは供血者の血液成分から原虫を除去する目的でINTERCEPTが用いられた初の報告である。
127	バベシア症	Transfusion 2013 Feb 27. [Article in press]	米国におけるBabesia microtiの陽性率に関する報告。コネチカット州において2009年8月から10月までに供血者から採取された血液サンプルを対象に、リアルタイムPCRによりB. microtiのDNAの陽性率を調べ、同時に蛍光抗体検査 (IFA) の結果と比較した。対象となった1,002例の供血者のうち25例 (2.5%) がIFA陽性であり、3例 (0.3%) がPCR陽性であった。PCR陽性の3例のうち、1例はIFA陰性であり、ウィンドウ期であった可能性が考えられた。この結果は、B. microtiを媒介するダニが増える時期においては、ウィンドウ期の感染を検出する核酸検査を含めた検査アルゴリズムが必要であることを示している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
128	マラリア	ProMED-mail 20120916.1296006	インドにおけるマラリアの報告。Goa州の保健当局担当者は、蚊の蔓延するモンスーンの時期にマラリア患者が増加することを警戒している。Jharkand州の医師は、熱帯熱マラリアによる腎不全の高頻度の発現を指摘した。これは同地域に蔓延する熱帯熱マラリアと不十分な医療体制に原因があると考えられている。Mahya Pradesh州Indoreでは、290例のマラリアが確認され、うち33例が熱帯熱マラリアであった。同地域はマラリアの増加する季節であり、検査体制及び殺虫剤の準備が進められている。Karnataka州Mangaloreでは、2012年8月までに報告されたマラリア患者の合計は4,000例を上回った。症状の重い熱帯熱マラリアを引き起こす Plasmodium falciparumは229例で検出された。Mangalore市内ではハマダラ蚊の繁殖場所を探し、破壊するための活動が行われている。
129	マラリア	ProMED-mail 20121015.1343574	インドにおけるマラリアの報告。Goa州では過去4年間、マラリア症例の報告は減少傾向であったが2012年は急増しており、10月時点で1,145例の患者が報告されている(2011年は935例)。専門家によると、この増加は気象による影響や、Orissa州やBengal州などマラリアの多い地域からのヒトの流入が関連していると考えられている。
130	トキソプラズマ症	Transpl Infect Dis. 14(2012)496-501	スペインにおけるトキソプラズマ症感染に関する報告。トキソプラズマ症は臍帯血移植(CBT)レシピエントのような免疫不全患者に影響を及ぼす重篤な日和見感染症である。スペイン国内の病院で治療された4人及び文献から収集した5人(計9人)のトキソプラズマ症CBT患者について再評価を実施した。患者らのCBT前の血清学検査結果は、陽性1人、陰性3人、不明1人であった。播種性疾患を呈した患者は全てトキソプラズマ感染症により死亡しており、CBTレシピエントにおけるトキソプラズマ症の死亡率は容認出来ないほどに高い。これらの患者の多くは血清学的検査で陰性となり、臨床症状が明確ではないため診断が難しい。CBTレシピエントにおいて、より良い診断検査と予防戦略が必要と考えられる。
131	感染	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/BloodBloodProducts/ApprovedProducts/LicensedProductsBLAs/BloodDonorScreening/UCM341088.pdf	米国食品医薬品局(FDA)は、原料血漿ドナーのスクリーニングに用いる病歴問診票及び付属資料(以下、SPDHQ文書)についてガイダンスを公表した。ガイダンスには以下の点が含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・FDAは、血漿タンパク質製剤協会が作成したSPDHQ文書について、FDAの要件及び勧告に則るものであると認める。 ・FDAは、すべての許可予定のSPDHQ文書をウェブサイトで公開する予定である。これらのSPDHQ文書は、ドナー適格者の病歴情報を得るための手段を提供するものとして、FDAが認めたものである。 ・公開予定のSPDHQ文書に基づいて原料血漿製造業者が製法変更を行う場合のFDAへの報告方法について提示する。